

3.3 陸前高田復興支援プログラム

コーディネーター総括

2017年度も、多くの方々のご理解・ご協力をいただき、無事に1年の活動を終えることができた。お礼を申し上げたい。今年度は前年度の路線をおおむね継承し、「震災を風化させない」「自分たちの住む地域での防災を考える」「陸前高田の魅力を発信する」ことを意識した活動となった。

昨年度から継続の活動としては、7月15日(土)の「きらりんきっず」での夕涼み会と、8月7日(月)の「けんか七夕」「うごく七夕」の活動がある。夕涼み会では、昨年同様「お化け屋敷」の運営のほか、盆踊りなどに学生たちが加わった。毎年8月7日に開催される、市内高田町の「うごく七夕」(昨年度に続き、荒町組にお世話になった)および気仙町の「けんか七夕」の二つの七夕まつりも、学生が毎年楽しみにしている伝統行事の一つである。今回は台風が近づくなかでの開催となった。

この台風の影響で、8月8日(火)～9日(水)に予定されていた市教育委員会主催の市内小学生を対象とした宿泊型のイベントも7日夜に開催中止が決まり、東京から陸前高田へ向かう予定だった学生たちに出発予定数時間前に「来なくてよい」旨連絡し、バスチケットのキャンセルを手配するなど、「七夕まつり」の引率中に対応に追われた。引率者がいる場合といない場合の対応に差が出ることも考えられ、危機管理は、今後も取り組むべき課題であると感じた。

今年度の新しい取り組みとしては、市教育委員会が実施している「たかた子どもキャンパス」の活動がある。市内の小学生を対象に土曜日の午前中に工作をしたり遊んだりするこの活動に今年度は2回参加し、2度目は学生たちの「持ち込み企画」として、子どもたちと「バルーンアート」を作って楽しんだ。小学生からも「時間が経つのを忘れた」など好評で、学生たちも活動に手ごたえを感じたようだ。

また、かさ上げされた土地に2017年4月に完成した商業施設「アバッセたかた」に入居している店舗や隣接してオープンした図書館へのヒアリングに、岩手大学の五味壮平教授らのご厚意により参加させていただいた。商売をされている方の声を伺う機会が今まであまりなかったこと、また、図書館では、ただ本が借りられればよいのではなく、利用者にとって居心地の良い「滞在型図書館」を目指した思いやお話を伺えたことは、参加した学生たちの大きな学びの機会となった。

ほかにも、学生たちだけで現地で数時間テーマを決めながら「まちあるき」をしつつ土地勘を養い、町で会った方々との会話を通じて、陸前高田の「いま」を感じる活動も導入した。学生たちが陸前高田の方々の「生の声」を知り、市の魅力を発信するためにも、もっと積極的に町に出てほしい。

また、本ボランティアセンターの他の学生たちとともに、横浜市民防災センターにおける陸前高田の現状や学生の活動を発信するパネル展示や、学内のイベントでの陸前高田の郷土料理等の調理・販売など、震災の風化を防ぎ地域の魅力を発信する活動も、徐々にだが広がりを見せてきている。

陸前高田市では、市役所の新庁舎が旧高田小学校の跡地に建てられることが決まった。また、2017年4月には、前述のように「アバッセたかた」が完成。周辺にスーパーや図書館、飲食店などが次々とオープンし、市内の別の場所で仮設営業していた飲食店などが今も続々と店舗を建設している。そしてアバッセたかたのそばには、2018年4月から「BRT 陸前高田駅」が現在の市役所近くから移転する。このように、沿岸部に新たな「市街地」が生まれつつある。防潮堤を造り土地もかさ上げしたとはいっても、震災から7年で海に向かって町を作っていくことに懸念を表明される方もいらっしゃる。さまざまな声に耳を傾けながら陸前高田のこれからを見守り、また自分たちの地域の沿岸地域の防災・減災を考えていくことは、私たちができる一つの役割かもしれない。

(ボランティアコーディネーター 中原美香)

●2017年度「陸前高田復興支援プログラム」の主な活動

日にち（移動日含む）	内容（参加人数）
5/1（月）	横浜キャンパス・学生職員協働「防災訓練」で「災害〇×クイズ」を実施
5/11（木）・5/18（木）	新入生勧誘説明会
5/27（土）・5/28（日）	大学祭「戸塚まつり」で岩手県の郷土料理「ひつつみ」を販売
6/2（金）～6/5（月）	スタディツアー（8名）
7/14（金）～7/17（月）	きらりんキッズ「夕涼み会」に参加（6名）
8/5（土）～8/9（水）	・「けんか七夕」に参加（4名） ・「うごく七夕」に参加（4名）
11/1（水）～11/3（金）	大学祭「白金祭」で陸前高田の味噌を使用した「玉こんにゃく」を販売
11/24（金）～11/27（月）	「たかた子どもキャンパス」に参加（2名）
2/13（火）～2/18（日）	合同スタディツアー（大槌町吉里吉里セクションと）（9名）
2/23（金）～2/25（日）	「たかた子どもキャンパス」に参加（5名）
3/2（金）～3/5（月）	「陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム2018」に参加（5名）
3/11（日）	「3.11被災地応援イベント『～あの時と今～』」（2名、職員1名） 横浜市民防災センターで横浜地域活動、「Do for Smile@東日本」プロジェクトの学生メンバーがワークショップ、パネル展示を実施
3/22（木）・3/23（金）	「大槌復興支援マルシェ」の「おおつちおばちゃんくらぶ」ブースにて出店 ボランティア@有楽町駅前（2名。大槌町吉里吉里セクションの活動に参加）

◇横浜キャンパス防災訓練での防災講座

目的	参加学生の防災意識を高める、震災について伝える
場所	明治学院大学横浜キャンパス体育館
活動内容	防災クイズ
活動日時	2017年5月1日（月）11:00～11:20
参加人数	14名（陸前高田メンバー）

実施概要

「Do for Smile@東日本」プロジェクト陸前高田復興支援プログラムは、これまでの復興支援活動での学びを生かし、防災講座として集まった学生に向けて防災クイズを行った。発生から約7年が経過する東日本大震災をいつまでも忘れないでほしい、そして、今後いつ起こるかわからない災害に対して防災の意識を高めてほしいという思いで企画した。また今回は、対象が学生であったため、楽しみながら学んでもらうためにクイズ形式を選び、防災を呼びかけた。



感想・活動を通して得た学び

出題する問題についてチーム内で議論した際、震災に関してチーム内では共通の理解があっても他の

学生にとっては初めて聞くようなことを、どうすればうまく伝わるかについて最も時間をかけて考えた。一つの工夫として、○×クイズで場所を区切るために使用したテープは、震災当日、実際に岩手県陸前高田市の市民体育館に到達した津波の高さと同じ長さにした（15.8メートル）。この工夫により、参加学生に津波の高さに関して当時のリアルなようすが、より強く伝わったのではないかと思う。

今後に向けて

イベント終了後、参加学生からは、「初めて知ることが多くて勉強になった」や「体を動かすクイズだったので楽しめた」などの声をもらい、この企画に意味があったと実感し嬉しく感じたと同時に、チームとしても個人としても、もっと多くの人に現地で得た学びや防災について伝える機会を増やしていきたいと強く思った。そのために、今後より一層、震災や防災についての知識を増やす努力をしていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇スタディツアー

目的	震災を知る、陸前高田の今を知る、今後自分たちに何ができるかを考える
場所	岩手県陸前高田市、大船渡市
活動内容	被災地見学、現地の方のお話を伺う、産直はまなす感謝祭への参加
活動日時	2017年6月3日（土）～6月4日（日）
参加人数	8名

実施概要

新メンバーが、活動拠点の一つである岩手県陸前高田市を知るためのツアーとして実施された。1日目は被災地見学として、旧道の駅タピック45や旧気仙中学校などをめぐり、語り部の實吉義正さんから当時の状況や現在の陸前高田についてのお話を伺った。さらに田村満さんにキャッセン大船渡を案内していただき、現在の陸前高田が抱える問題についてお話を伺った。2日目は産直はまなすで開催された感謝祭に参加し、戸羽初枝さんらにお話を伺った。

感想・活動を通して得た学び

初めて被災地に足を運び、実際に震災当時のまま残る建物を目にしたときは衝撃だった。一方で、復興が進んでいるともいえる「かさ上げ」が行われ、工事用の車両が多く走っている高台の風景が広がっていたことも印象に残っている。当時の状況についてのお話は生々しく悲しいものだった。「風化させてはいけない」という言葉の意味を強く実感し、同じ震災でもそれぞれ違う受け止め方があることを改めて知ることができた。

今後に向けて

現地の方々にお話を伺った際、皆さんが必ず「自分たちのこの経験を防災・減災に生かしてほしい」とおっしゃっていた。震災から時間が経ち、支援の方法も変化するなかで、首都圏で暮らす大学生の私たちに何ができるのかを考えたとき、このことは常に共通で意識しているべき課題である。そして、これからの活動のなかで、より異なる立場、世代の方々からさまざまな視点からのお話を伺い、震災や陸前高田への理解を深めていく必要があると感じた。

(学生メンバー 社会学部社会学科)

◇「きらりんきっず」夕涼み会

目的	・陸前高田の皆さんと子どもたちにとってよい思い出になるように盛り上げる ・地域の方々と交流し、リアルタイムでのニーズを知って今後の活動に生かす
場所	高田大隅つどいの丘商店街（陸前高田市高田町）
活動内容	陸前高田市の子育て支援団体 NPO 法人きらりんきっず主催の夕涼み会での運営準備の手伝い、お化け屋敷の企画・運営/被災地見学
活動日時 参加人数	2017年7月15日（土）～7月16日（日） 6名

実施概要

7月15日に陸前高田市の子育て支援団体 NPO 法人きらりんきっず主催の夕涼み会で運営準備の手伝い、お化け屋敷の企画・運営を行い、夜には地域の方と一緒に盆踊りをした。7月16日には、旧道の駅タピック 45、奇跡の一本松、旧気仙中学校、八木澤カフェに行き、被災場所を見学した。

感想・活動を通して得た学び

地域の方と交流することで、地域の方の陸前高田を大切に思う気持ちや、子どもたちへの愛情を感じることができた。夕涼み会が、地域の方にとって心の支えであることや、多くの人をつなぐ必要不可欠な存在であると感じた。そして、被災場所を実際に訪れたことで改めて被害の大きさを感じ、風化させてはいけないと思った。実際に陸前高田に足を運んでわかることがたくさんあると強く感じた活動になった。

今後に向けて

お化け屋敷に何度も来て楽しんでくれる子どもが多かったため、次年度も夕涼み会でお化け屋敷を企画させていただけたら嬉しい。そして、他の場所から来ていたボランティアの方もいたため、地域の方だけでなく、ボランティアの方からも話を聞き、私たちの活動に生かすきっかけにできればよいと思う。

（学生メンバー 社会学部社会福祉学科）

◇けんか七夕

目的	・伝統ある「けんか七夕まつり」を盛り上げる ・まつりに携わる方々の、まつりに対する思いを知る
場所	本来は陸前高田市気仙町だが、かさ上げ工事のため、市内高田町
活動内容	祭りの準備、参加、片付け
活動日時 参加人数	2017年8月6日（日）8：00～8月8日（火）12：00 4名

実施概要

けんか七夕まつりは900年の歴史を持ち、ロープを引っ張り合い、山車をおつけ合うまつりである。本番は8月7日と決まっていますが、前日にはけんか七夕まつりの準備、当日は祭りに参加、翌日は片付けを行った。具体的には、山車の装飾や会場の整備をした。作業の合間に、地元の方や私たちのように他の地域からのボランティアの方々からお話を伺った。

感想・活動を通して得た学び

開催が難しくなっているまつりであり、ボランティアなしでは山車を引くことも難しい現状になってきていることを知った。しかし、地元の方々はまつりに対して強い思いがあることを、実際にまつりに参加することで知り、触れることができた。

今後に向けて

まつり会場や参加者など、年々状況は変わっていくため、今後も継続して関わって町の変化も見たい。まつりに参加して感じた魅力や、地元の方々のまつりに対する思いを発信していきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇うごく七夕

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・まつりに参加することで、地域の活性化に貢献する ・長年続いているまつりに参加することで、現地の人々がまつりにかける思いを知る ・準備や片付け、当日のまつりを通じて、自分たちから積極的にコミュニケーションを取る
場所	陸前高田市市内アバッセたかた周辺、荒町地区
活動内容	まつり前日にまつりの準備、山車の飾りつけ/まつり当日の山車引き、まつりの手伝い
活動日時	2017年8月6日(日)～8月7日(月)(※8日はけんか七夕片付けお手伝いに参加)
参加人数	4名

実施概要

陸前高田市高田町で毎年8月7日に行われている歴史あるまつりを盛り上げる手伝いをさせていただいた。高田町内のさまざまな地区で山車を作り練り歩くが、昨年同様、今年も荒町組の皆さんにお世話になった。本学のボランティア以外にも、お茶の水女子大学や、関西大学からボランティア学生の方々が来ていた。まつりの前日は、山車の飾りつけの準備後、近くの温泉に行き夕食は懇親会を通じて交流した。まつり当日は、台風が近づいていてあいにくの大雨だったが、山車を中田団地付近の倉庫から4月にオープンした商業施設「アバッセたかた」まで引き、他の地区の山車との見せ合いをした。その後、荒町地区で女性陣が用意してくださった昼食をいただいた後、小さい山車を引いて老人ホームを訪問した。夜にはライトアップされた山車を引き、アバッセたかた周辺を練り歩き、倉庫まで戻り活動を終えた。



感想・活動を通して得た学び

この活動を通して、まつりが地元の人に与える影響を感じることができた。また高田町の皆さんがまつりを必要としていて、さらにそれらは、彼らをつなげるのに大きな役割を担っていると感じた。今回は、他大学の方とも一緒に活動したので、同じ陸前高田で活動している学生から意見を聞くことができ、よい経験になった。今年のまつりは、かさ上げ地での初めての開催だった。一からまちを再びつくって

いる地域なので、復興がまた一步進んだことを感じた。

今後に向けて

高田町の方々にとって大切な伝統行事であるこのまつりは、地域には必要なものであると感じた。私たちボランティアがこれからやるべきことの一つとして、被災地としての陸前高田を発信するのではなく、このような伝統があることや、伝統行事であるうごく七夕まつりを大切にしている方々の思いなどを伝えることがある。これからも陸前高田の人々の地元愛や思いを理解し、考え、つながっていきたいと思う。

(学生メンバー 法学部法律学科)

◇たかた子どもキャンパス(11月)

目的	・市内の小学生たちに勉強や遊びの充実した時間を過ごしてもらう ・陸前高田市内の小学生たちと交流する
場所	陸前高田市コミュニティホール
活動内容	子どもたちの工作(クリスマスリースや飾り作り)の手伝い
活動日時、 参加人数	2017年11月25日(土)9:30~12:00(※25日午後、26日は「アバッセたかた専門店街&図書館紹介プロジェクト」に参加。 https://www.meijigakuin.ac.jp/volunteer/activity/doforsmile/news/rikuzentakata/news/201804-houkoku.html 2名

実施概要

陸前高田市教育委員会主催の「たかた子どもキャンパス」で、クリスマスリースや飾り作りの運営の手伝いを行った。また、子どもに怪我のないよう見守った。

*たかた子どもキャンパス：土曜日午前中に市内の小学生が学習活動や文化体験活動、地域住民等との交流活動などさまざまな体験活動に取り組む、市教育委員会が主催するプログラム。

感想・活動を通して得た学び

子どもたちが安全で楽しい活動をするサポートができればよいと思い、今回の企画に参加させていただいた。静かに制作したり、走り回ったりなど、個性豊かな子どもたちに対して、職員の方々がそれぞれに合った対応をしていた。子どもたちと職員の間には強い信頼関係があるように感じた。

今後に向けて

子どもたちが楽しむことのできる企画を提案する。そして、子どもたちや職員の方々とより強い関わりをもてるように、たかた子どもキャンパスに継続的に参加したいと思った。

(学生メンバー 経済学部経営学科)

◇たかた子どもキャンパス（2月）

目的	・高田に住む子どもたちと関わることで、子どもたちの視点から考え、「憩いチーム」の活動に生かしていく ・子どもたちに楽しんでもらう
場所	陸前高田市コミュニティホール
活動内容	バルーンアート
活動日時	2018年2月24日（土）9:00～12:30（※午後は「食」をキーワードにまちあるき）
参加人数	5名

実施概要

たかた子どもキャンパスへの持ち込み企画として、市内に住む小学生12名とバルーンアートを実施した。参加学生は事前に練習を行い、作り方を覚えて当日に臨んだ。作り方を教え、一緒に作ることを通して、子どもたちと近い距離で交流することができた。



感想・活動を通して得た学び

子どもたちは吸収が速く、作り方をすぐに覚えていたのが印象に残った。はじめからバルーンが割れることを恐れずに思い切りよく、目の前のことに全力で取り組む子どもたちの姿はとても輝いていて、よい刺激になった。終了後提出されたアンケートでも「楽しかった」「あっという間に時間がすぎて、おなかすいていたのを忘れてしまった」「またやりたい」など、楽しんでもくれたようすがわかり、この企画を実施してよかったと思った。

今後に向けて

私たちが事前に用意していた4種類の作り方を小学生がすべて覚え、自分で応用して新しく作っている子どもが多かった。そういった場合にもしっかりと対応できるように、学生はより多くの作り方やアイデアを用意しておくべきである。

（学生メンバー 社会学部社会学科）

◇陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム2018

目的	市外から訪れて復興支援活動などに携わる方や若者も含めた市内の方が、陸前高田へどのような思いを抱き活動しているのかをつかみ、私たちの活動に生かすために大切なことを改めて学ぶ
場所	陸前高田グローバルキャンパス
活動内容	シンポジウムに参加し、さまざまな団体・大学の方の取り組みについて学び吸収するとともに、交流を図る
活動日時	2018年3月3日（土）～3月4日（日）
参加人数	5名

実施概要

陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウムは、陸前高田で活動する大学や市内で活動する団体などの取り組み内容の発表を通じて、市民と大学関係者の相互交流を目指して2017年から年に1度実施されている。今年は3月3日（土）・4日（日）にかけて行われた。私たち学生メンバーは今回が初参加である。また3日には市街地も歩いて回った。

感想・活動を通して得た学び

今回の活動を通じて、私たち自身から陸前高田の方とつながりを作り続ける姿勢が大切であると感じた。つながることを通じて、陸前高田の方の思いを知ることができる。そして思いを知ること初めて私たちの活動は成り立つのだと思う。とても重要な視点であると気づくことができた。

今後に向けて

震災から7年が経ち、既存の活動にとらわれない活動が求められるなか、私たちは改めて活動を見直す必要がある。そしていかにして陸前高田の方の思いと活動を結びつけるのか、今後はより地域の方の思いに寄り添えるような、元気を届けられるような活動を目指していきたい。

(学生メンバー 法学部法律学科)